

建設資材物流の現状と課題及び 課題解決の方向性等について

【「建設資材の輸送における荷待ち時間の分析」の評価】

- 上記分析により、建設資材の輸送において荷待ちが多く発生している品目や場所等について、一定の傾向は把握可能。
- 一方、本懇談会において荷待ち時間の解消のための具体的方策を検討していく上では、荷待ちが発生している具体的な品目や場所等をさらに詳細に分析・特定して荷待ちの状況をデータで「見える化」するとともに、そこで荷待ちが発生している原因や関係事業者の意見等を詳細に把握する必要がある。



【今年度の実施事項：**荷待ち時間の更なる実態把握**】

- 上記調査の協力事業者等から数社を抽出して、荷待ち時間が発生している品目、場所、原因等について、ヒアリングやデータ収集等を通じて分析を深める。
- 〔 ※これと並行して、既に顕在化している課題（以下、論点①～④）については、課題解決に向けた具体的な対応を進める。 〕

論点①: 工事現場の進捗状況等の情報共有

【現状・課題】

- 建築・工事現場における資材の搬出入は事前に計画されているが、荷卸しスペースの広さに対して納品する物量が多い場合や、同じタイミングで複数の資材が納品される場合等には荷卸し待ちが発生する場合がある。
 - 設計の変更や工程の遅れ等により搬出入計画に変更が生じる場合は、電話等にてその旨連絡をしているが、連絡がドライバーにまで伝わらないうちに納品先にトラックが到着してしまう場合がある。その場合、現場に納品物を置いて帰ることができず、持ち戻りが発生する場合がある。
 - 荷卸し待ちの場所や荷受人がわからない場合がある。（例：新築戸建て住宅の場合は、建築現場の場所は地番表記であるため、現場の場所の特定が困難な場合がある）
- ⇒ 現場に関してトラック事業者が必要とする情報が十分にかつ、リアルタイムに共有されていないため、搬出入計画の変更に合わせて最適な輸送を行えなかったり、無駄な輸送が発生する場合がある。

【課題解決の方向性】

- 近年、大規模な工事現場や戸建て住宅の建築現場においては、スマホアプリを用いて工事の進捗状況の把握や搬出入の計画を共有している例がある。
- スマホアプリ等の活用により、工程の変更等の現場の情報が速やかにトラック事業者にも共有されるようになれば、ドライバーの荷待ち時間の削減につながるのではないかと。
- 建設業者側でも、職長会議での関係者の情報共有が効率化されるのではないかと。（現行では、ホワイトボードに作業予定等を記入し、各職長がその内容を書き写して各々の関係事業者に展開することが多い）

【今年度の実施事項：工事現場の工程管理や搬出入管理の効率化に資するアプリの効果検証】

- トラック事業者も含めた現場の関係者で、試行的に工事現場の工程管理や搬出入管理の効率化に資するアプリを導入することにより、現場の生産性向上、トラックドライバーの荷待ち時間の減少等にどの程度の効果があるかを検証する。

論点②:リードタイムの確保

【現状・課題】

- 過度なリードタイム競争による「前日午後注文、当日朝納品」といった短納期での納品サイクルにより、翌日分の荷積み待ち等の待機時間が発生している。
 - 設計変更や天候の影響等により工程に変更が生じた場合の追加・変更発注の際等に、メーカーが設定している発注期限が守られない場合があり、工事現場への納品までの時間が十分に確保されていない。
- ⇒ 注文確定から納品期限までが短いため、急なドライバーの乗務割当が必要になる場合があると同時に、見込み配車によるトラックドライバーの待機時間が発生する。

【課題解決の方向性】

- 本来のリードタイムを確保できるようにする必要があるのではないか。
- 設計変更等による工程変更が生じた場合に、十分なリードタイムを前提においた計画変更を行うべきではないか。

【今年度の実施事項：**十分なリードタイムを確保するための方策の検討**等】

- 例えば、物量の多い鉄鋼製品、セメント・コンクリート等の具体的な品目を例に取り上げて、十分なリードタイムを確保するための方策について、ゼネコンやハウスメーカー等の元請事業者やその下請の施工事業者等も一緒になって、受注から配車・納入までの流れ・仕組み等に関する課題の洗い出し、改善方策等について整理・検討する。

論点③：附帯作業の軽減

【現状・課題】

- 「車上渡し」が原則であるが、なし崩し的に守られておらず、資格が必要な玉掛け作業までドライバーが行っている場合がある。
- ⇒ 附帯作業を契約外でドライバーが行っている場合がある。
- ⇒ 一方、工事現場や鋼材の加工場等も人手不足であり、ドライバーに附帯作業を依頼せざるを得ない場合もある。

【課題解決の方向性】

- 「車上渡し」が原則。
- 加工工場や工事現場等の荷受側の受入態勢等の事情により、ドライバーが附帯作業を行わざるをえない場合は、当該作業の内容を契約上明確にし、料金を収受することを徹底すべき。

【今年度の実施事項：**附帯作業に係る実態調査、優良事例の調査検討等**】

- 附帯作業の発生箇所、作業内容等について実態調査を行い、必要性や効率化方策の検討を行う。
- 「車上渡し」や、契約を交わし料金を収受して附帯作業を実施している事例についてヒアリングを実施し、附帯作業に関し、荷主との交渉・契約等を行うにあたってのノウハウや課題等を検討・整理する。

論点④：検品・仕分作業の効率化

【現状・課題】

- 建材・住宅設備メーカーや問屋においては、検品の際の品番確認を目視で行っている。
 - 製品は多品種である上、品番の桁数が多く、かつ、住宅ごとや住宅内の部屋ごとに製品の仕分けを行っているため、検品に時間がかかっている。
- ⇒ 検品に長時間を要し、待ち時間がトラック事業者の荷待ち時間につながっている。

【課題解決の方向性】

- 検品を効率化するためには、検品作業を目視からQRコードやバーコード等を用いた方法に転換する必要があるのではないか。
- QRコードやバーコード等の仕組みは、メーカーごとに異なると検品作業の効率化は進まないことから、メーカー横断的な仕組みとする必要があるのではないか。

【今年度の実施事項：「建材物流コード」導入による検品・仕分作業の効率化】

- 現在一部の建築資材メーカーで検討が進んでいる「建材物流コード」を導入することにより、問屋やメーカー倉庫等における生産性向上、トラックドライバーの荷待ち時間の減少等にどの程度の効果があるかを検証する。